

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）

本覺山妙壽寺が発行する寺報です。

檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

No.32

平成 30 年 3 月 1 日発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1

電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427

ホームページ http://myojyujj.or.jp

当山先代両上人 年回忌法要



左上：両上人のご宝前、右：木下信隆上人御導師と組寺上人式衆

1月28日、境内に22日の雪の残る中、両先代上人（第二十四世本覚院日淳上人第五十回忌 法寿44歳、第二十五世智覚院日恵尼上人第三十七回忌 法寿64歳）の年回忌法要が午後3時より本堂にて、東京教区宗務所長・当山相談役・永隆寺住職木下信隆上人御導師、組寺上人式衆にて、厳かに奉修されました。室内には両上人ゆかりの寺院ご住職、総代世話人役員、婦人会、有縁の方々、親戚等170余名が参列してご回向・ご焼香をいただきました。

午後5時から帝国ホテル「光の間」に移動しての供養席。両上人在世当時のエピソード等のご挨拶お話をいただき、参会者一同在りし日の両上人をお偲び致しました。



左：浅見慈一師による講「江口」、仕舞「卒塔婆小町」。中央：元宗務総長渡辺俊岳上人ご挨拶。右：当山総代・内田祥哉先生（左）のご挨拶の後、お礼の言葉を述べる当住上人と久美夫人

無縁社会と寺縁その29

本年一月、當山第二十四世顯道日淳上人第五十回忌、第二十五世妙恵日恵尼上人第三十七回忌法要が奉修されました。現住職が11歳、小学校5年時の師父の遷化から50年、齡還暦を昨年迎え、母堂遷化後の36年の年月が住職在職期間でもあり、思い一入のものがありました。

この両先代年回忌法要を迎える直前のひと月の間に、當山総代大野典也先生、植田新太郎氏がご逝去され、當山にとりまして誠に大きな悲しみであり、この上ない喪失感の思いであります。植田氏は昭和60年の御会式、大野先生は平成14年の御会式において、それぞれ総代にご就任いただきました。

植田氏は、妙恵尼上人在職中より総代就任をご依頼し、本堂再建委員としてお力添えを頂きました。その役員会における的確なご指摘や當山運営に卓越したご意見は比類のないもので、また、その優しいお声かけの数々は、未だに耳の奥に残っております。多くの対外的な活動において残されたその功績や善行は記憶に留めるべきものと思います。

大野先生は、妙恵尼上人七回忌の後、日照上人贈進の法華経を求めて渡米した際に、ニューヨークのご自宅にご一家をお訪ねしたのがその知遇を得た最初でした（烏山信報昭和63年9月20日第6号）。その後、慈恵医大の旧校舍研究室に度々お話を伺いに参りました。先生は、青年のような志と滞米生活で培われた自由や平等に対する人としての真摯な生き方、研究生活での不屈の精神、真理探究への努力と柔軟さ、これらは小柄の人生の指針となり、正に師範と言えました。

両先代遷化後の當山の歴史においてお二人の果たされた役割と功績を心に刻み、その遺志を継いで當山護持に努力を重ねていくことを誓わねばならないと思います。

鵜 鴎

妙壽寺 2018 春夏秋スケジュール

3月10日㊦ 東日本大震災祥月忌（第八回忌）参拝者募集
人形町法華宗宗務院御宝前 13:00 法要
東京大空襲祥月忌 参拝者募集
両国・東京慰霊堂 15:00 参拝

3月21日㊦ 春季彼岸法要
午前11時 中日合同法要 初座
正12時 歴代墓所並びに正隆廟法要・動物廟法要
午後2時 中日合同法要 第二座

4月21日㊦・22日㊦ 躑躅（つつじ）観賞会 於・鍋島客殿 自由参観

5月1日㊦ 猿江稲荷社例大祭
11:00～
例大祭法要後（約30分）、錦糸町東武ホテルにて昼食懇談会
参加費：3,000円（猿江稲荷崇敬会費・お土産）、昼食費は実費3,000円程度

5月14日㊦ 日蓮聖人御生誕 800 年慶讃
小湊誕生寺と大本山鷲山寺を巡る団参旅行（正隆会ウォーク）

11月3日㊦ 御会式・宗祖御生誕 800 年慶讃法要及び昭和 본堂落慶 35 周年法要
お稚児さん募集

11月24日㊦ 一之輔落語×竹灯籠能「紅葉狩」

*催しの参加お申込は、別紙詳細参照願います。



追悼

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

総代大野典也先生

当山檀信徒総代・東京慈恵会医科大学名誉教授大野典也先生には療養中のところ、昨年12月23日ご逝去されました（慈教院智涌日典居士 行年80歳）。同27日通夜、28日葬儀には延べ300名を超える方々が当山本堂ご宝前に参拝焼香されました。

先生は、コロンビア大学、ハーバード大学で研究を積み、東京慈恵会医科大学細菌学教室にて最新の研究で多くの業績を残され、数多の後進の指導で慕われたお人柄でありました。（本紙平成25年9月20日・同26年1月11日号にインタビュー掲載）

総代植田新太郎氏

当山で長きにわたり檀信徒総代をお務めいただいたウエダジュエラー取締役会長（帝国ホテル内）植田新太郎氏には、1月16日、療養中のところご逝去されました（東光院慶徳智識日新居士 行年80歳）。

同21日、22日当山ご宝前においてご親族により通夜、葬儀が肅やかに執り行われ、後日お別れ会が開催されます。植田総代は、東京青年会議所理事長、東京ロータリークラブ会長等を歴任、社会奉仕活動に精励され、近年は学校法人雙葉学園理事長として教育活動にも力を注がれ、その見識と指導力は誠に優れたものでありました。（本紙平成29年9月1日・同30年1月1日号にインタビュー掲載）写真



寺日記

てらにつき

2月8日の本葬儀に先立ち、同2日に納棺式が奉修されました。

●2月1日 永隆寺先々代上人年回忌法要

永隆寺先々代大僧正木下日衆上人（親良院日衆上人）第三十七回忌法要が法華寺久野泰瑞上人御導師により奉修されました。

●2月3日 正隆会節分会豆まき

昨年11月7日に遷化された石井隆康上人（龍泉院日香上人 法寿70歳）本葬儀が厳かに奉修され八芳園にて供養が行われました。

●2月5日 目黒・立源寺本葬儀

昨年11月7日に遷化された石井隆康上人（龍泉院日香上人 法寿70歳）本葬儀が厳かに奉修され八芳園にて供養が行われました。

●2月6日 8日 東京ブディストクラブ台湾旅行

7日、台南光徳寺参拝、浄心老師面談。

●2月20日 宗教法制研究会 於 弁護士会館

2月28日 興隆学林卒業式 学林宗務院協議会

●1月1日 元旦国禱会

1月10日 裏千家談交會互礼会

1月13日 正隆会初題目

1月15日 裏千家初釜式

1月18日 立正大学教授北川前肇先生最終講義

1月22日 東京ブディストクラブ中里勝禮先生（法寿71歳）赤坂圓通寺住職密葬・通夜

1月25日 千葉教区新年会

1月28日 当山両先代上人年回忌法要

1月31日 東京ブディストクラブ

井上日宏先生（法寿90歳）遷化

猿江別院御写経会のご案内

参加者募集

昨年5月に建立された猿江別院は、当山の月例講である正隆会の開催を通して、檀信徒の皆様をはじめ、地域の方々への法華経信仰の伝道などをめざしております。その先鞭として「御写経会」を開催致しますので、ご参加をお願い申し上げます。

日時：各回すべて金曜日、午後1時より午後7時に開催

第1回 平成30年4月13日

第3回 平成30年8月3日

第5回 平成30年12月7日

第2回 平成30年6月8日

第4回 平成30年10月5日

第6回 平成31年1月11日

詳細は、別紙ご案内をご覧ください。

正隆会

【SHORYU-kai】

午後2時開催

月例講
ご案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

3月10日（土）東日本大震災祥月忌（第八回忌）（人形町法華宗宗務院御宝前）
東京大空襲祥月忌（両国・東京慰霊堂）
4月14日（土）勉強会「法華経の略要品」拝読 -4-
5月14日（月）課外活動ウォーク「宗祖日蓮大聖人御生誕800年記念宗祖御誕生地巡拝」旅行
6月9日（土）勉強会「法華経の略要品」拝読 -5-
7月14日（土）講師勉強会（興隆学林教授 平島盛龍先生）
8月 休講



当住上人の

宗務院 DIARY

1/9 ▶宗務院仕事始め、本山学林内局連絡会議
1/9, 1/25 ▶内局会議
1/31 ▶法華学園臨時理事会
2/14, 15 ▶法華宗宗門史編集委員会
2/23 ▶紛議懲戒審査会

予告

正隆会ウォーク

宗祖日蓮大聖人御生誕 800 年記念
宗祖御誕生地・御霊跡巡拝

日程：5月14日（月） 募集人数：40名

行程予定▶新宿駅⇒海ほたる⇒小湊誕生寺⇒昼食⇒清澄山⇒茂原・大本山鷲山寺⇒東京駅⇒新宿駅（日帰り）

※詳細は別紙参照

日淳上人第五十回忌、日恵尼上人第三十七回忌
両上人の年回忌にあたり思い出を語る

(平成29年11月30日 於・妙壽寺猿江別院)

それぞれの妙壽寺とのご縁

住職 来る1月28日に先代、私はあえて両先代と呼びますが、顕道・妙恵上人の50回忌、37回忌を奉修させていただきます。師父と母は短い間でしたが、妙壽寺の歴代を夫婦で勤めました。その二人の時代が50回忌という大きな区切りを迎えましたが、今日はその両上人を知ってお三方、身近なお二人、石塚さん

と大坪さん、また、当山の恒例行事にお手伝いいただいたいる河野さんにお越しいただき思い出を語っていただきます。

石塚さんは師父顕道上人の兄弟子である法昌寺露木泰隆上人のご紹介で、法昌寺お檀家の石塚家のご子息をお小僧さんとしてお預かりするという経緯だったと思います。

石塚 私が妙壽寺に来たのは32年4月初めです。法昌寺の住職に連れてこられた時は、新宿駅はまだ板張りのホームでした。今でもはつきり覚えています。恵子さん（日照上人五女）にお会いしたんです。

住職 迎えに来たんですか。

石塚 いえ、たまたますれ違ったんです、新宿駅で。

住職 (笑) でも、当時はそれぐらい乗降客が少なかったということですね。

石塚 私の母親も一緒でしたが、露木上人が恵子さんを知っていて、ちょうどその日が日照上人三回忌の法要で、お寺に着いたら婦人会の方々が模擬店など開いていて、ものすごくにぎやかなときでした。

住職 妙壽寺に来ることをお母さんには言い含められていたんですか。

石塚 いやいや、全然知らなかったです。言われていたら絶対に「うん」と言わないです。



第二十五世智覚院日恵尼上人第三十七回忌



第二十四世本覚院日淳上人第五十回忌

◀前列左 当住上人、同右 石塚師。後列左から、寺田師弟・栄一郎氏、当住上人妹・珠恵さん、寺田祐龍（利則）師、河野氏（昭和36年頃）

◀左より大坪顕孝師、当住上人、河野通則氏、石塚泰道師、当山猿江別院院御宝前にて



石塚泰道師：昭和22年4月14日生。昭和32年～38年の6年間顕道上人の弟子として修行。その後、東京電気（現東芝テック）に45年間勤務、その傍ら当山の諸行事に奉仕。平成16年再得度、廣明上人の弟子となり平成19年より当山の職員として従事。

大坪顕孝師：昭和22年7月27日生。千代日化工建設株式会社に46年間勤務、その傍ら清明庵並びに当山の諸行事に奉仕。平成12年夏に庶明上人の弟子となり、平成23年退職後、当山の職員として従事。

河野通則氏：昭和21年11月23日生。同35年～37年、顕道上人の所化として修行。駒澤大学卒業。大成建設に7年間勤務後、父の建設会社に入社。取締役社長を経て、現在相談役。顕道上人遷化後、以来50年余、当山行事に奉仕を続ける。

さったのですか。それとも大坪さんご自身が…

大坪 私です。晩御飯を食べてからです。

住職 夕食後、一品一品お題目をたくさん上げて、正の字を書いていくのです。ご指示頂いた本数をあげ終わると清明庵に伺います。

私はうれしくてお詣りに行くのですが、先生は「怖いよ、怖いよ」と言われるのです。今思えば多分これが十界互具（注…十界のそれぞれが十界を具えていること、地獄も十界を具え、仏も十界を具えており、また人間も地獄から仏界までの十界を具えている）の教

えなところ、善のほうはうれしくて…それがずっと高校ぐらいまで続きました。私はこの時に、全く目に見えないものを頂くことを体感しました。そしてそれが今まで続いたということでしょうか。

住職 藤波先生のお題目の力は偉大でありました。

大坪 ええ。やはり先生のお人柄をお慕いして、みんなが畏敬の念で、お題目の罪障消滅を体感していたからだと思います。

住職 ああ、なるほど。それと、本当に藤波先生はお持たせするのが好きでした。

大坪 絶対手ぶらでは帰らせなかったです。住職 ですから、その布施行ないまします。か、私は非常と思うところがあります。

修行と日常生活

住職 河野さんは、私が物心ついたときにはお寺にいて、石塚さんも含め、何人かいるお兄ちゃんたちのお一人だったということ。その河野さんは、そもそも種子島から妙壽寺に

来られた経緯は…

河野 妙壽寺で立正大学の夜間部に通いながらの所化だった寺田（利則）さんが、種子島に帰省した時でした。種子島には、高校はありましたが、遅かれ早かれ鹿児島市内とかの高校へ行くことが多いんです。その寺田さん曰く、東京の妙壽寺というお寺で朝晩掃除したり、いろいろ手伝えば大学まで出してくれると。私の父に話があったて、これ幸い、私一人

じゃ寂しいだろうからと私の同級生で寺田さんの弟（栄一郎氏）も一緒に行くことで、洋子さんを連れて一緒に35年10月、私が中学2年の時に妙壽寺に回りました。そして翌年の4月、日照上人の7回忌に得度したわけです。

私はお守り担当で幼稚園の送り迎えや全殿に子守りを担当。一方、先輩の石塚さんは、既にお経がかなり出来ていました。

住職 種子島と東京では食べ物がありますが、慣れましたか。

河野 お寺は麦飯だから同じですよ。三食食べて、腹いっぱい食させてもらってよかったです。 (笑) 朝5時に起きて本堂を掃除6時からお勤めです。すると、先代の住職も夜の帰宅が遅いのに、朝6時に起きてくるから大したものだなというも思っていました。

どんなに遅くても、たまには二日酔いもあつたと思えますが、必ずお勤めしていました。

住職 石塚さんの得度はいつでしたか。

石塚 小学校6年です。

住職 それは来てすぐということですか。

石塚 いえ、2年ぐらいいたっていました。

住職 お会式のときだったと思います。

お寺には常に10人以上の方々が住んでいて、ということ、妙恵上人もお寺の奥さんであると同時に、相撲部屋のおかみさんのように、皆さんの食事などや生活全般の世話に目を配って、住職の世話をする、それは大変だったでしょうね。

住職 そう思いますよ。

石塚 まず石塚さんの中で、妙恵上人というのはどのような存在でしたか。

住職 もう相撲部屋ですね、早い話。 (笑)

石塚 私が小学校4年で転入したときも一緒にいてきてくれたのは妙恵上人ですし、修学旅行から帰ってきたときに、学校まで迎えに来てくれたのも妙恵上人なんです。

住職 そうですか。河野さんは…

河野 当時は「奥さん、奥さん」てみんな慕っていたからね。先代のお父さんはこれも「みつつちゃん、食べた」とか絶えず気を遣ってくれて…

石塚 朝ごはんの前に「霊膳があるんですよ。霊膳は盛高（勢以）のおばあちゃんと私とが役目で、8個ぐらひは上げていましたね。

河野 そういことがありましたね。

石塚 朝、おばあちゃんが木火鉢のところで煮て、そして上げる。

住職 ですから、盛高さんという方は本当に本郷の地所を寄附して、それが本堂再建のもとになり、清明庵を残し、そして晩年はお寺でお給仕をされたということだから、やはり妙壽寺にとっては大変な方でした。

石塚 そうですね。

河野 私なんか種子島では、お年玉の風習がなかったから、盛高のおばあちゃんにお年玉をもらうのは楽しみだったね。

住職 ああ、いい話ですね。

顕道上人と清明庵

住職 清明庵は、現在も8月に伊東に集まって海施餓鬼がありますが、大坪さんは両先代の時代、参加したことはありません。

大坪 早い、いえ。毎年、母が参加していました。私が、私は仕事がありましたから。

話飛びますが、顕道上人が清明庵の行事の度にお見えになって、私に「お寺にもおいでよ」と言ってくださったんです。藤波先生がご遷化されたのは、私が高校3年のときで

住職 そのときは、清明庵の行事は顕道上人が導師を勤めていたのですか。

大坪 そうでした。

住職 そうですか。当時、印象に残っている方はいらっしゃいますか。

大坪 皆さん、信仰心が深く、非常に勉強されていました。口角心を飛ばすぐらいにして、喧々諤々とされていてました。大変印象的でした。

住職 皆さん分け隔てなく、横並びで和気あいあいと、長幼の序といいますが、敬いがあって、何とも言えない雰囲気でした。

大坪 やはり先生のお人柄というのか、本当にみんな先生のことを敬っておられました。

住職 清明庵は先生のご意志を引き継がれて、そういうことで今日に至っていますが、これからの集う場をつくっていくことが私の夢で、目標と考えています。

師父顕道上人と母代わりの妙恵上人

住職 石塚さん、河野さんは先ほど顕道上人は厳しかったという話がありました。

石塚 しよつちゅう怒られていました。

(笑) 例えば、河野さんが言われたことをやってないだ」と、泰弘がしっかりとっていないからいのだ」と。

河野 まあ、兄弟子だからね。

住職 年は一歳若くても。

石塚 そう。とにかく周りの人がちよつとチョンボしても怒られるのは私なんです。そのこと全然知らないでね。あの当時、何で怒られてるんだろと思うてね、不思議だったですよ。

河野 正座して本堂かどこかに座ったこともあつたようなことも。

石塚 あの当時、お線香が1本なくなるのにならなくていい。

30分ばかり、その間、本堂で、一人でお題目を唱えてきなさいと言われて。

河野 私も一度一緒にやつたことがある。それも、吉祥寺に映画や食事に何度も連れて行ってもらった。

住職 父にですか。

河野 そうそう。お母さんとお父さんと何回か行つた。

住職 私は何しろ父とは短く、10年ですからその思い出の中では、何で子供を連れていったのかと思うのは、必ず行くのは勝新の映画「兵隊やくざ」と「座頭市」。その「兵隊やくざ」というのは今考えてみると、父も戦争へ行っているから、父にとつては懐かしかったのでは。それとおでん屋とか飲み屋さんですね。お酒はビールをはじめ好きでした。

住職 そういう中で昭和44年に師父、顕道先代が遷化されますが、それは大坪さん、やはり驚かれましたか。

大坪 2、3カ月に一回ぐらい私の家に、回向にお見えになっていました。何かに取りつめたように、熱心にお経をあげてくださった。その後、寛が心に進路に迷っていた私に親身になって叱咤激励してくださいました。

ある晩、弟から顕道上人をお寺までお送りしました。時、「兄貴、顕道上人の身体がぐあいが悪いんじゃないの」と言ったんです。それから間もなく、妙恵上人から顕道上人が入院された電話で伺いました。私は出張から帰ってきたばかりで遅かったので、「明日にお見舞いに行かせていただきます」と、一日で、その日は寝たんです。そうしたら明け方に妙恵上人から母のところに電話があつて、ご遷化されたことがお寺に上りました。

母は非常に妙恵上人にかわいがつていていておりましたので、一番に電話がかつてきたと思います。とりもなおさず、車で病院へ向かいました。父と母と私と3人で、それぞれ深い悲しみに声も出ませんでした。

ご住職は伺つていたんです。妙壽寺さん、私が妙恵上人から後で伺つたのは、病院の方角が、嫌だなと言われて入院されたということでした。今でも、お電話をいただいた時と次の日のことをよく覚えています。

住職 石塚さんは顕道上人が亡くなられたことを後からわかつたんですか。

石塚 そうですね。その時は私もお寺を出てから10年ぐらい経っていました。

河野 私はわけてあります。妙壽寺さんと3、4年離れていましたが、たまたま種子島に帰省していた時で、知らせを聞いてすぐに妙恵上人に電話し、線香を上げに行つていかと、すぐ来てくれました。

それからまたずっとお寺には事あるごとにお世話になつていくわけです。お会式とか施餓鬼のときは、弁当を私が帰りに届けたりしました。

私の結婚式にも来てくれたし、その後もずっとおつき合ひしていました。

住職 そうですか。私は、師父が亡くなったとき、まだ小学校5年生でした。

あのころはいろいろな人が大勢いた時代だったと…

これからの妙壽寺あるべき姿とは

住職 そういう中で、皆さんお三方には本堂にお力添えをいただいている現状ですが、今の妙壽寺はそういう歴史の中で今日があるという事です。

過去のお話をさせていただいて、両先代、顕道・妙恵上人の時代から引き継がれ、我々もまたいずれ過去の人になつていくわけですが、私が36年間、つまり、妙恵上人が亡くなつてから37回忌で36年間住職を勤めて、お寺を預かってきましたが、ある種ブレッシュヤであると同時に、励ましたと思えます。日照上人がやうに遂げたこと、そして両先代がそれを受け継ぎ、それに皆様方がそれ

ぞれの人生の中で良くも悪くも巻き込まれて、今日ここにおいて、4人で話し合っているという縁の中で、妙壽寺と清明庵をどのように残していくか、展望などを皆さんにお聞かせいただければと思います。

大坪 先ほども申し上げたとおり、私が非常に小さいときには、ただわけもわからずに、ただお題目1本上げれば、次の日は周囲の雰囲気が違うというのを感じて、それが多かった。

それから20代、30代、40代とこうしてきました。1つ残念なのは、も

と顕道上人があつた5年、あるいは10年ご健在でしたら、私の人生は相当変わったかもしれません。というのは、とにかくお坊さんになれと言われていたのです。今日ご住職がこういう席を設けていただいた、正行院（清明庵藤波妙龍先生）から始まって、顕道上人、妙恵上人、それぞれに、今日お話ししていることもまたたくさん思い出して残っていることがあります。

これらを思い出のもとに、妙壽寺、これから妙壽寺というところ、現在のお手伝い出来るのは、頑張つても10年ぐらいでしよう。ちよつと生意氣な言い方ですが、これまでに妙壽寺の寺務とかが大変改善され、いろいろな意味でよくなりました。

やはりご住職のご尽力の賜だと思つた。そういう中で、常々ご住職が言われている、まだ改善出来ることは何があるかといったとき、それには必要なのは適材の人となるわけですから、我々は、微力ながらぎりぎりまでお手伝いさせて頂こうと思つております。

住職 石塚さん、うなずいていました。

石塚 いやいや、これはつかしは本堂に非常に難しい話で、どういふふうに答えていいのかわからないです。

住職 ただ、妙壽寺の歴史の中で、私は本堂に石塚さんがかわつてくれた。この10年、20年は、先ほど適材適所という話がありましたが、誰よりも私は、檀信徒の中で本堂に悲しみのどん底にある人、困つて迷つていてる人が石塚さん独特のソフトな面であつて、救われているの、か、いつも思っています。

大坪 それはみんなそう思っています。

住職 石塚さんがいることによつて、和やかになつて、胸襟が開けて、これはどうしたらいいかなということになる。だから、私としては第2、第3の、何人でも石塚さんがいてくれたらありがたいなと思つている。そういうお寺であつた。それが将来へ向けてのことです。

それともう1つは、河野さんのようにいろいろな形で関わつておられますが、お寺に對する思いが残つておられます。今日は河野さんの話を聞いていて、その青春時代の中で、そういう経験があつたから、また、そういう思いを持つていただけるよう、お寺にならなければとすぐ思いました。

河野 私も妙壽寺に13歳ぐらひのときからお世話になつて、かれこれ53年になります。長いですね、考えてみれば。私にすれば第2のふるさどです。

檀家さんの数も多く、いろいろな人がよく来ます。私はあれだけ弁当箱をお渡しして、ほとんど覚えていない人も、大変わけます。お会式、お施餓鬼、お参りしやすい。今後は住職には頑張ってもらつて、ひと

つ行きやすいお寺にしてもらいたいです。

住職 最後に最高の褒め言葉をいただき、今日は本堂にありがとうございました。いい話がたくさんあり、懐かし過ぎて、何かちよつと涙が出そうなお話も幾つかありました。これから妙壽寺の、またそれぞれの立場でお力添えいただき、と思います。今日はどうもありがとうございました。

(了)